

大学図書館における書架分類の現状と問題点

福永智子*

The Actual Conditions of the Shelf Classification in the Academic Library

FUKUNAGA Tomoko

1. 図書館における資料組織

図書館資料を利用できる状態にするための機能を総称して資料組織と呼んでいる。言い換えれば資料組織は、何万冊、何十万冊もの図書館コレクションのなかから、利用者が求める1冊を効率的かつ効果的に探し出すための一連の手法である。近年、書誌コントロールの対象はインターネット上のウェブページにまで拡大しているが、図書館における資料組織は、書誌コントロールのもっとも伝統的かつ基本的な形態であると言える。

資料組織は具体的には目録作業や分類作業から構成される。図書館における資料検索の機能は目録と分類が相互補完的に機能してはじめて実現される。一般に利用者が求める図書館資料を閲覧するには、第一に目録に向かい、既知の手がかりから目録データベースの検索をする。第二に目録上の書誌データが求める図書のものと同であることを確認し、その所在記号をメモする。第三にその所在記号を手がかりに、図書館の閲覧室を歩き、特定の書架で求める図書を入手するという手順となっている。

大学図書館の目録については、国立情報学研究所を中心とする目録所在情報データベースの構築によって、標準化されたうえに広範囲で高品質な目録データの利用が可能となっている。伝統的な主題、著者名、書名に加えて、さまざまなアクセスポイントから図書が検索できるようになり、また目録はウェブ上で公開されることも多く、書誌上での利便性は従来とは比較にならないくらい向上している。すなわち、大学図書館の利用者が求める資料を閲覧するための第一、第二の段階は、自宅やキャンパス内の端末からデータベースを操作することで達成できる。これらの段階に対応するための大学図書館のサービスは、標準化された共通のデータベースが基本となっているため、どの図書館においても本質的なサービス格差が認められるものではない。

一方、第三の段階は、物理的実体としての図書を膨大な書架群から探し出すという具体的な「モノ」を扱うプロセスである。この利用者の行動に対応するための図書館の方策として、主題順に図書を配架する書架分類という方法が採用されている¹⁾。書架分類には、

* 文化情報学部 文化情報学科

図書の配架位置を決定するという機能のみならず、主題による検索が書架上で可能であるという大きな利点を有している。同じ主題の図書は書架上でまとまり、また近い主題の図書が近くに配列されている。閲覧室が開架されていることが条件になるが、利用者は書架をブラウジングすることで、求めるテーマの資料について目録を介することなく直接手にとって探し求めることもある程度までは可能になる。

このように利点の多い書架分類であるが、全国的に標準化された高度な目録システムに対して、書架分類は図書館資料の配架作業と不可分の関係にあり、ローカルな各図書館の事情によるところが大きい。その結果として、図書館ごとに大きなサービス格差が認められることも考えられる。図書館資料が効率的に探索できるかどうかは、目録システムと書架分類という車輪の両輪の働きにかかっていると言っても過言ではない。オンライン目録を検索し書誌のデータを得て、図書の言わば館内でのアドレスが明らかになったところで、実際の書架上でそのアドレスが十分にわかりやすく示されていないければ、何十万冊という書架群の現場で、利用者が迷うことにもなりかねないのである。

そこで本稿では、利用者にとって使いやすい図書館に必要な資料組織のあり方を探るため、まずはその基礎的研究として、大学図書館で採用されている書架分類の実態とその問題点を明らかにする。

2. 書架分類の理論

2.1 書誌分類と書架分類

図書の主題分類は大別すると以下の2つのタイプが存在する。一つは書架分類で、物理的実体としての図書を、図書館の閲覧室において書架に体系的に配列するための分類である。もう一つは書誌分類で、目録データ上に記載されている書誌上の分類である。その最大の違いは、書架分類が一資料一分類であるのに対して、書誌分類は一資料が表現している主題のすべてを表現し、検索のアクセスポイントとして複数の分類記号を付与することができる点にある。

この一資料一分類という特徴が主要な要因であるが、図書館資料に対する主題からのアクセスは、一般に書架分類だけでは十分ではない。書架分類の問題点は、おおむね以下のようまとめられる²⁾。

1. 日本十進分類法の一般分類規定により、一図書に複数の主題が含まれる場合や、全集や論文集中の独立した著作にそれぞれ主題がある場合でも、そのうちの一主題しか生かすことができない。図書館に複本を備え付ける場合でも、配架場所は一箇所決定される。
2. 同一主題の図書でも、開架閲覧室と閉架の書庫、あるいは特別な文庫などに分散することがある。
3. 開架閲覧室内においては、同一主題の図書が、通常、一般図書、参考図書、大型本、文庫本などに、分散して配架されている。
4. 閲覧中、貸出中の図書もあり、すべての図書が書架上にあるとは限らない。
5. すべての利用者にとって、分類記号の理解は必ずしも容易ではない。広大な閲覧室内を歩き回るにあたって、効果的なサインシステムがきわめて重要となる。

これらの問題を補うために書誌分類が存在し、分類記号や件名標目という主題からのアクセスを目録システム上で提供することによって、主題からのアプローチを相互補完的に可能にしている。

2.2 書架分類の基準

日本十進分類法 (NDC)³⁾においては、個別の図書館でNDCをどのように適用するかその目安を示しており、蔵書の量が増大するに比例して分類記号の桁数が増えていく(表1)。

表1 分類表適用の詳細さ

蔵書量	NDCの詳細度
20万冊以上	細目表
10万冊～20万冊	第四次区分、一部細目表
5万冊～10万冊	第四次区分、一部要目表
1万冊～5万冊	要目表、一部第四次区分
1万冊以下	要目表

また、「蔵書の主題別偏り」について、「同量の蔵書でも特定の主題分野に偏った蔵書の場合、その分野については細目表を使用する必要があるが、他の分野については要目表でも充分である」としたうえで、以下のように説明している。

一つの分類項目に分類される図書数は何冊が適当かは基準がないが、NDC9版への改訂の際は書架1段40冊を一応の指標とした。その辺りを考慮して、使用する分類表の深度を決めることをすすめる⁴⁾。

すなわち、絶対的な基準というものはないが、目安として最大で書架1段分にあたる40冊の資料については、同じ分類記号になってもよいということである。一般的な利用者が、求める図書を同じ分類記号を有する図書40冊の中から探し出すことは、理想的とは言えないまでも、それほど不便なことではないように思われる。

実際の図書館では、図書の所在位置を示す記号(所在記号)として、分類記号を補足するために図書記号が採用されているところが多い。図書記号の種類としては、受入順にアラビア数字の一連の番号を与える「受入順記号法」や、同一分類記号の図書群を著者名順に配列するために著者の姓の1～2字を仮名またはローマ字で表記する「著者記号法」などがある。図書記号が採用されている図書館の利用者は、分類記号がまったく同じ図書については、2次的な手がかりとしての図書記号をもとに書架上の図書を探すことになる。

ここで重要な問題を2点指摘することができる。第一の問題は、NDCの分類の深度が、表1に見られる通り蔵書量によって変化していくことにある。当初、3万冊程度の蔵書からスタートした大学図書館が、学部増設に伴いその規模を拡大し、徐々に5万冊、10万冊、25万冊と蔵書を増やしていったと想定する。3万冊の時代には、分類記号は要目表(第3

	(所在記号)
304	←分類記号
Fu	←図書記号

次区分表)すなわち3桁で対応することもできるが、蔵書が増えるにしたがって、4桁・5桁とより深い桁数が必要となる。図書館では、どこかの時点で分類の桁数を一新する意思決定をしなければならない。定期的に蔵書をモニタリングし、書架上で同じ分類番号の図書が増えすぎないように注意を払う必要があるが、それは現状では各図書館の努力に委ねられている。司書職制度が確立していない私立大学などでは問題となる可能性がある。

なお、NDCでは全国書誌による書誌分類の情報を、各図書館の書架分類にどう適用させるかについて、自館にふさわしい分類記号に修正する方法と、全国書誌の分類記号をそのまま適用する方法とをとりあげている⁵⁾。傾向として後者の方が増えているということであるが、大学図書館の場合も、全国的に標準化された目録の活用が基本となっているので、後者の方式が採用されることが多いものと想定される。

上記のように全国書誌の分類記号をそのまま書架分類に採用した図書館および、蔵書が20万冊を超えた大学図書館では、NDCのもっとも詳細な分類を採用することになる。ここで第2の問題として、それでもなお分類の深度が不十分である場合、すなわち、まったく同じ分類番号の図書が基準の40冊を大幅に超えてしまう場合があるということである。これはNDCの主題表現能力の問題によるものであり、根本的な解決としては、NDCの改訂を待つよりほかにない。現状では図書記号によって対応するのが一般的で、そのほかにも各図書館が、館内のサインの導入や特殊な分類の提供によって対応している。たとえば公立図書館では、利用者の便宜を図るために9類の小説や読み物にしばしば独自の分類を採用している。逆に現場の図書館の対応が不十分であると、どんなに目録が整備されていても、書架上での検索効率は低下していく。

上記のような大きく2つの問題を抱えた書架分類であるが、現場の図書館では実際どのように対応しているのであろうか。次章では実態調査の手順とその結果について述べる。

3. 調査方法と結果

3.1 調査の方法と手順

調査は、開架閲覧室の書架分類の実態を明らかにするため、書架上における同じ分類記号を持つ図書の量を調べることを第一の目的とした。対象は椙山女学園大学中央図書館である。中央図書館の蔵書はおよそ29万冊であり、貴重書以外の図書はすべて開架されている。開架閲覧室の実態を把握するという観点から、2階および地下2階の参考図書室、特別文庫、1階の文庫本や新着図書などのコーナーは除外している。

本学図書館のオンライン目録では請求記号による検索ができないことと、書架分類の実態を把握するということから実際に開架書架に向かい、図書の点数をカウントした。調査時期は、平成15年9月1日～12日である。

カウント方法は概ね以下のとおりである。図書館の書架は一般に空間がたくさんとられているものだが、本学図書館の場合開架書架はほぼ満杯の状態である。そこで、書架がほぼ一杯の状態を基準としてカウントした。仮に空間がある場合でも空間分は除いて図書が実際に占めているスペースだけをカウントした。すなわち、同じ番号が2段と半分にわたって配架されていても、その間にスペースが1段分あるとすると、スペース分を除いて1段と半分というように数えた。

書架における図書の分量は、NDCの規定によれば1段まではよいものと認められているのでカウントしなかった。書架1段より多い分類番号については、0.5段刻みで記録した。0.5段を超えるごとに、1.5, 2.0, 2.5…というように記録した。1.5段に満たない、たとえば1.3段分の図書が配架されていた場合は、1.0段と記録した。

3.2 結果と考察

3.2.1 目安を超えている分類記号

0類から9類までの各表は、3章で示したカウント方法で1.5段以上の図書が存在する分類記号の一覧である。表に示したとおり、NDCの目安である書架1段40冊という基準を大幅に超えている分類番号が多数あるという結果である。1.5段以上の分類番号がまったくないという状態が望ましいが、NDCの表現能力にも問題がある以上、現場の図書館としてはやむをえないとも言える。しかしながら最大は「918.68 (個人全集)」の117.5段であった。117.5段という量は、7段の書架17本程度に換算され、利用者にとっては使いにくいものと想定される。

3.2.2 分類記号の不適切な表示

分類番号が、請求記号の2段目の著者記号の位置にはみ出している図書がしばしば見受けられた。たとえば、「361.41」は「361」が1段目、「41」が本来図書記号であるべき2段目に表示されている。そして図書記号は記されていない。「361.41」の図書の間に見したところ「361」の図書が配架されているような印象を受け、これは利用者にとっては非常にわかりにくい。3類だけでも、「361.41」、「361.42」、「367.21」、「361.62」、「361.45」、「361.47」、「361.78」と多数ある。この問題は早急に改善されるべきである。

361
41

3.2.3 NDCの版改訂への対応

「215.1」、「215.2」、「215.3」がそれぞれNDC新訂9版によれば「山梨県」、「長野県」、「岐阜県」を意味するのであるが、本学図書館では、「愛知」、「名古屋市」、「愛知県下の名古屋市以外の市町村」に関する図書にこれらの番号が付与されている。おそらく、NDCの版が改訂された際に、対応がなされなかったものと推察される。このほかにも、『新修名古屋市史』は「215.5」、『名古屋市史』は「215.2」に分類されるなど、まったく同じ主題であっても分類記号が異なるケースもある。7類では、同じタイトルの上下巻で分類記号が異なっている図書も見受けられた。

3.2.4 図書記号の不足

椋山女学園大学図書館では、平成7年度より図書記号が採用され、著者記号法により著者の頭文字がローマ字表記されている。その図書記号であるが、書架では表記されていない図書が圧倒的に多い。平成7年より以前に登録された図書については、ほとんど図書記号が付与されていない。図書記号が付与された図書は、付与されていない図書とスペースを少し空けて別置されている場合と、混在している場合とがある。

全体として一見したところ図書記号が付与されている図書は1割未満という印象であ

る。ちなみに、「281(日本の多数人の伝記)」では2.5段の書架のうち2段に図書記号がない。「291(日本の地理)」では、10.5段の書架のうち、9.5段に図書記号がない。例外として「289(個人伝記)」には20段すべての図書に著者記号があった。伝記は著者名から検索することができるがほとんどであるので、特別に措置されているものと思われる。

大多数の図書に図書記号がないということは、表に示した1.5段以上の同じ分類記号の図書を利用者が書架上で探索する場合、分類記号以外の手がかりがないということである。まったく同じ分類記号しか付与されていない1.5段以上の書架は表に示したとおりの数多く、本学の利用者は、最大117.5段分の図書群から求める1冊を探さなければならない。高度な目録所在情報データベースを検索して図書館にやってくると、求める図書が効率的に発見できない、あるいは非常に忍耐強く図書を探さなければならない状況に置かれていると言える。この問題は図書館サービスの基本にかかわるものであり、現場の図書館としては早急に遡及的な図書記号の導入を検討するべきである。

なお、図書記号の著者記号法は、和書については現在のローマ字方式ではなく、わかりやすい五十音式の採用も検討できるのではないだろうか。利用者のなかには、請求記号の2段目がローマ字であることも、図書記号であることも知らない人が多い。ローマ字はヘボン式、訓令式と種類もあり、説明が館内に示されていなくては使いにくい。たとえば「は」「ひ」が「h」で始まるが、「ふ」はヘボン式では「f」で始まり、「h」の棚を探して間違いに気づき、再度「f」で探し始めるということがある。公立図書館では五十音式を採用しているところもしばしば見受けられるが、著者の五十音順であれば特に説明がなくてもわかりやすく、「著者名のあいうえお順に図書が並んでいる」と利用者が推し量ることもできよう。

3.2.5 独自の分類およびサインの計画

「214.3」の書架が地下1階閲覧室のもっとも端にあり壁に面しているが、その続きがどこにあるのか「214.3」周辺にサインがなくわかりにくい。簡単な指示は階段近くにあるが、実際に書架の中に入ってしまうと続きがどこにあるのか、慣れない利用者にとっては方向性が把握しにくい。すべての書架の列に通し番号を付与する、サインを大きくわかりやすくする、利用案内に説明を印刷して配布するなど、工夫の余地がある。近年の大型書店では、図書を検索する端末上で、店内のどの場所に求める図書が置かれているかを図面で表示するところもある。顧客満足という観点から、図書館としても大いに参考になる。

また、「913.6(日本近代小説)」の分類記号には、NDCの規定では明治時代から現代までの日本の小説が配架されることになっている。本学図書館でも「913.6」の図書は43段ある。書店であれば平積みで店頭に並ぶような新しい図書が、明治期の図書の中に埋もれてしまっている。毎年予算を投じて購入した新刊本や話題の図書を利用者が発見しやすくするため、時代や年代で分ける、図書記号のサインを工夫するなどの必要があろう。伝記のコーナーなども同様である。

4. 考 察

NDCにおいて一つの分類項目に分類される図書の冊数の指標として掲げられている「書

大学図書館における書架分類の現状と問題点

架1段40冊」という目安であるが、椙山女学園大学中央図書館では対応できていないことが明らかになった。NDCの主題表現能力の問題もあるかもしれないが、最大の原因は、本学図書館が全面開架制を導入していることにあると考えられる。開架閲覧室とは別に、閉架書架あるいは集密書架などの部屋を設け、図書を登録時期などによって別置すれば、書架上での検索効率はとりあえず向上させることができる。

次に、「書架1段40冊」を超過した書架分類を実施している図書館においては、図書記号の果たす役割が非常に大きいことが明らかになった。図書記号の付与については、現場の図書館の努力に委ねられているのが現状であるが、日本図書館協会などの公式機関による書架分類の指針などがあれば、各図書館では対応しやすいように思われる。

今後の研究課題として、大学図書館における書架分類やサインのあり方が、図書館利用者による図書の検索効率にどのように影響しているのか、新入生と上級生の違いなど具体的に検証することが挙げられる。

0類 (総記)					
分類番号	主 題	書架の段数	分類番号	主 題	書架の段数
002	知識、学問、学術	2.0	020	図書・書誌学	3.5
007	情報科学	2.5	023	出版	3.5
007.1	情報理論	7.0	041	論文集 (日本語)	8.0
007.3	情報と社会	6.0	069	博物館	3.0
007.5	ドキュメンテーション	1.5	070	ジャーナリズム	3.5
007.6	情報処理	36.0	080	叢書・全集・選集	6.0
010.2	図書館史・事情	2.5	081	叢書 (日本語)	40.0
010.4	図書館 (論文集)	2.5	081.5	叢書 (江戸以前)	1.5
016.2	公共図書館	2.5	081.6	叢書 (明治以後)	2.5
017	学校図書館	2.5	082	叢書 (中国語)	50.5
019	読書	2.5	084	叢書 (ドイツ語)	2.5

1類 (哲学)					
分類番号	主 題	書架の段数	分類番号	主 題	書架の段数
104	哲学 (論文集)	4.0	141.93	人格、性格	3.0
108	哲学 (叢書)	6.0	143	発達心理学	3.0
114	人間学	2.0	145	異常心理学	3.0
116	論理学・弁証法	2.0	146	臨床心理学	4.0
120	東洋思想	4.0	146.1	精神分析学	2.5
121	日本思想	24.0	146.8	心理療法	4.0
121.5	日本思想 (近世)	1.5	147	超心理学、心霊研究	1.5
122	中国思想	4.5	150	倫理学、道徳	3.0
123	経書	3.0	159	人生訓、教訓	2.0
124	先秦思想・諸子百家	2.0	160	宗教	3.5
125	中国思想 (中世)	2.0	161	宗教学	1.5
130	西洋思想	1.5	162	宗教史、事情	4.0
131	西洋思想 (古代)	2.5	164	神話、神話学	2.0
132	西洋思想 (中世)	3.0	170	神道	5.5
132.2	スコラ哲学	1.5	175	神社、神職	5.0
133	西洋思想 (近代)	1.5	180	仏教	14.0
134	ドイツ・オーストリア哲学	10.0	181	仏教哲学	2.0
134.9	現象学、実存主義	1.5	182	仏教史	6.0
135	フランス・オランダ哲学	5.5	183	経典	20.0
140	心理学	8.0	184	法話、説教集	1.5
140.7	心理学 (研究、指導)	2.0	185	寺院、僧職	1.5
140.8	心理学 (叢書)	1.5	188	各宗	14.0
141	普通心理学	3.0	193	聖書	5.0
141.5	思考・想像・創造性	3.0	198	各教派、教会史	3.0

福永智子

2類 (歴史)					
分類番号	主 題	書架の段数	分類番号	主 題	書架の段数
209	世界史・文化史	13.0	221	朝鮮	2.0
210	日本史	51.0	222	中国	17.0
210.08	日本史 (叢書)	2.5	222.01	中国 (通史)	1.5
210.1	通史	12.0	230	ヨーロッパ史, 西洋史	4.5
210.3	古代	10.0	232	古代ローマ	2.0
210.4	中世	11.0	233	イギリス	3.5
210.5	近世	14.5	234	ドイツ, 中欧	2.0
210.6	近代	5.0	235	フランス	2.5
210.7	昭和・平成時代	5.0	253	アメリカ合衆国	5.0
213	関東地方	9.0	281	伝記 (日本)	2.5
215	中部地方	5.0	288	系譜, 家史, 皇室	6.5
215.1	[愛知県]	2.5	289	個人伝記	20.0
215.2	[名古屋市]	5.0	290	地理, 地誌, 紀行	10.5
215.3	[愛知県の市町村]	4.0	291	地理 (日本)	19.0
215.5	愛知県	2.0	292	地理 (アジア)	5.0
220	アジア史, 東洋史	5.0	293	地理 (ヨーロッパ)	3.0

3類 (社会科学)					
分類番号	主 題	書架の段数	分類番号	主 題	書架の段数
302.1	社会事情 (日本)	2.5	367.2	女性史・事情	4.0
302.2	社会事情 (アジア)	2.5	367.21	女性史・事情 (日本)	3.5
302.3	社会事情 (ヨーロッパ)	2.0	367.3	家・家族関係	2.5
302.5	社会事情 (北米)	4.0	367.6	児童・青少年問題	1.5
304	社会科学 (論文集)	7.0	369	社会福祉	3.0
308	社会科学 (叢書)	2.5	369.2	公的扶助	1.5
309	社会思想	4.0	370	教育	7.5
311	政治学	10.0	370.4	教育 (論文集)	4.0
312	政治史・事情	7.0	370.8	教育 (叢書)	30.0
316	国家と個人・民族・宗教	5.5	371	教育学・教育思想	10.0
316.8	民族・人種問題	1.5	371.1	教育哲学	2.0
317	行政	1.5	371.2	教育学史・思想史	4.0
318	地方自治	7.0	371.3	教育社会学	2.5
319	外交・国際問題	23.0	371.4	教育心理学	9.0
320	法律	6.0	371.45	児童心理	5.5
321	法学	7.0	371.5	各種の教育論・類型	2.0
322	法制史	5.0	372	教育史・事情	8.0
323	憲法	10.5	372.1	日本教育史・事情	7.5
323.9	行政法	2.0	372.3	教育史 (ヨーロッパ)	1.5
324	民法	20.0	373	教育政策・教育制度	5.5
325	商法	6.5	373.1	教育政策・学校制度	2.0
326	刑法・刑事法	3.0	373.2	教育行政	2.5
327	司法・訴訟手続法	5.0	374	学校経営・管理	4.5
329	国際法	5.0	374.3	教職員	1.5
330	経済	2.5	375	教育課程	12.5
331	経済学・経済思想	20.0	375.1	学習指導 (一般)	4.0
332	経済史・事情	13.5	375.2	生活指導	1.5
332.1	日本経済史・事情	2.0	375.3	社会科教育	1.5
333	経済政策・国際経済	12.5	375.4	科学教育	2.0
334	人口, 土地, 資源	2.0	375.5	技術・家庭科	1.5
335	企業・経営	13.0	375.8	国語科・国語教育	5.5
335.2	経営史・事情	1.5	375.89	外国語教育	2.0
336	経営管理	22.0	375.9	教科書	5.5
336.4	人事管理, 労務管理	1.5	376	幼児・初等・中等教育	3.0
336.9	財務会計	1.5	377	大学, 高等・専門教育	4.0
337	貨幣・通貨	2.5	377.1	大学の管理・組織	2.0
338	金融・銀行・信託	9.0	377.2	大学の歴史・事情	4.5
345	租税	3.5	377.6	海外留学, 交換教授	2.5
360	社会	1.5	378	障害児教育	3.0
361	社会学	9.5	379	社会教育	6.0

大学図書館における書架分類の現状と問題点

361.4	社会心理学	9.5	379.9	家庭教育	1.5
361.45	コミュニケーション	6.0	380	風俗習慣, 民族学	12.0
361.5	文化社会学	6.0	380.8	風俗習慣(全集)	5.5
361.6	社会集団	2.5	382	風俗史, 民俗誌, 民族誌	4.0
361.63	血縁集団, 家族	2.0	382.1	風俗史(日本)	4.5
361.78	都市	2.0	383.1	服装, 服飾史	5.5
364	社会保障	1.5	383.8	飲食史	6.0
365	生活・消費者問題	5.0	384	社会・家庭生活の習俗	1.5
365.3	住宅問題	2.5	386	年中行事, 祭礼	3.0
366	労働経済・労働問題	2.0	387	民間信仰, 迷信	2.5
366.2	労働力・雇用・労働市場	2.0	388	伝説, 民話	10.5
366.3	労働条件	2.0	389	民族学, 文化人類学	7.5
367	家族問題	8.5			

4類(自然科学)					
分類番号	主 題	書架の段数	分類番号	主 題	書架の段数
401	科学理論, 科学哲学	2.0	463	細胞学	3.0
402	科学史・事情	3.0	464	一般生化学	14.5
404	科学(論文集)	3.0	465	微生物学	2.0
408	科学(叢書)	2.5	467	遺伝学	6.0
410	数学	6.5	469	人類学	2.0
411	代数学	1.5	471	一般植物学	2.0
413	解析学	3.0	481	一般動物学	3.0
414	幾何学	1.5	490	医学	7.0
417	確率論, 数理統計学	10.5	491.1	解剖学	3.0
418	計算法	1.5	491.3	生理学	10.0
420	物理学	5.0	491.4	生化学	4.0
421	理論物理学	2.0	491.6	病理学	1.5
423	力学	1.5	491.7	細菌学, 病理微生物学	1.5
425	光学	1.5	492	臨床医学, 診断・治療	2.5
428	物性物理学	2.0	492.6	[食餌療法]	1.5
429	原子物理学	1.5	493	内科学	17.0
430	化学	5.5	494	外科学	2.0
431	物理化学, 理論化学	7.0	498	衛生学, 予防医学	5.0
431.9	高分子化学	2.0	498.1	衛生行政, 厚生行政	2.0
432	実験化学	5.5	498.3	個人衛生, 健康法	2.0
433	分析化学	7.0	498.4	環境衛生	2.0
437	有機化学	8.5	498.5	食品, 栄養	3.5
450	地球科学, 地学	5.0	498.51	食品学	3.0
451	気象学	1.5	498.53	食品化学	6.0
455	地質学	2.0	498.54	食品衛生	2.0
457	古生物学	1.5	498.55	栄養学, 栄養化学	7.0
460	生物科学, 一般生物学	5.0	498.58	治療栄養学	3.0
461	理論生物学, 生命論	2.0	499	薬学	4.0

5類(技術, 工学)					
分類番号	主 題	書架の段数	分類番号	主 題	書架の段数
501	工業基礎学	6.5	549	電子工学	4.0
509	工業経済	5.0	576	油脂類	3.5
518	衛生工学, 都市工学	3.0	578	高分子化学工業	4.0
519	公害, 環境工学	7.0	586.1	繊維物理, 化学, 分析	1.5
519.1	公害, 環境行政, 法令	1.5	587	染色加工, 染色業	1.5
520	建築学	8.0	588	食品工業	4.5
521	日本の建築	3.0	588.5	醱酵工業, 酒類	2.0
523	西洋の建築	3.5	589	その他の雑工業	1.5
524	建築構造	3.5	590	家政学, 生活科学	6.5
525	建築計画・施工	4.5	593	衣服, 裁縫	3.0
525.1	建築計画・設計	1.5	593.3	洋服, 洋服	2.5
526	各種の建築	2.5	594	手芸	1.5
527	住宅建築	4.0	596	食品, 料理	7.5

福永智子

528	建築設備, 設備工学	1.5	596.11	[日本料理]	1.5
547	通信工学, 電気通信	7.5	596.13	[西洋料理]	2.0
548	情報工学	4.5	599	育児	1.5

6類 (産業)					
分類番号	主 題	書架の段数	分類番号	主 題	書架の段数
601	産業政策, 総合開発	1.5	612	農業史, 事情	1.5
610	農業	3.5	673	商業経営, 商店	2.5
611	農業経済	6.5	675	マーケティング	5.5

7類 (芸術)					
分類番号	主 題	書架の段数	分類番号	主 題	書架の段数
701	芸術理論, 美学	4.5	762	音楽史, 各国の音楽	6.0
702	芸術史, 美術史	9.0	762.3	西洋音楽	2.5
704	芸術 (論文集)	2.5	763	楽器, 器楽	2.0
706	芸術, 美術 (団体)	2.0	766	劇音楽	1.5
708	芸術 (叢書)	6.0	767	声楽	3.5
709	芸術政策, 文化財	1.5	768	邦楽	2.0
720	絵画	1.5	770	演劇	2.0
721	日本画	2.0	772	演劇史, 各国の演劇	4.0
723	洋画	4.0	773	能楽, 狂言	4.0
726	漫画, 挿絵, 童画	4.5	774	歌舞伎	3.5
728	書, 書道	7.0	778	映画	7.0
750	工芸	1.5	780	スポーツ, 体育	17.5
753	染織工芸	4.5	780.1	体育理論, 体育学	3.5
757	デザイン, 装飾美術	8.0	781	体操, 遊戯	1.5
760	音楽	7.0	783	球技	2.0
761	音楽の一般理論	2.5			

8類 (言語)					
分類番号	主 題	書架の段数	分類番号	主 題	書架の段数
801	言語学	8.0	820.8	中国語 (叢書)	2.0
810	日本語	1.5	821	中国語 (音声, 音韻)	2.0
810.1	日本語理論, 国語学	1.5	830	英語	2.5
810.2	国語史	6.0	830.2	英語史	1.5
810.4	日本語 (論文集)	4.0	830.4	英語 (論文集)	3.0
810.7	日本語 (研究・指導法)	3.5	830.7	英語 (研究・指導法)	7.0
810.8	日本語 (叢書)	6.5	830.8	英語 (叢書)	3.5
811	日本語 (音声, 音韻)	4.5	834	英語 (語彙)	1.5
814	日本語 (語彙)	3.5	835	英語 (文法)	11.0
815	日本語 (文法)	7.5	836	英語 (文章, 文体)	1.5
816	日本語 (文章, 文体)	3.5	837	英語 (読本, 解釈)	4.0
818	日本語 (方言, 訛語)	5.0			

9類 (文学)					
分類番号	主 題	書架の段数	分類番号	主 題	書架の段数
901	文学理論・作法	2.0	913.52	浮世草子	1.5
901.9	比較文学	2.0	913.6	小説 (近代)	43.0
904	文学 (論文集)	3.5	913.8	童話	7.5
908	文学 (叢書)	26.5	914.3	評論 (古代)	3.5
908.1	詩 (叢書)	2.0	914.45	徒然草	2.0
908.3	小説・物語 (叢書)	2.0	914.5	評論 (近世)	8.0
909	児童文学研究	2.5	914.6	評論 (近代)	21.5
910.2	日本文学史	8.0	915.4	日記 (中世)	1.5
910.23	日本文学史 (古代)	6.5	915.5	日記 (近世)	1.5
910.24	日本文学史 (中世)	2.0	915.6	日記 (近代)	4.5
910.25	日本文学史 (近世)	4.5	916	記録, ルポルタージュ	4.5
910.26	日本文学史 (近代)	22.0	918	作品集	63.0

大学図書館における書架分類の現状と問題点

910.268	日本文学 (作家研究)	45.5	918.5	作品集 (近世)	20.0
910.4	日本文学 (論文集)	18.0	918.6	作品集 (近代)	30.0
910.8	日本文学 (叢書)	18.5	918.68	個人全集	117.5
911	詩歌	2.0	919	漢詩文. 日本漢文学	3.0
911.1	和歌. 短歌	11.0	919.3	漢詩文 (古代)	2.0
911.12	万葉集	18.0	919.4	漢詩文 (中世)	2.5
911.13	詩歌 (古代後期)	2.0	919.5	漢詩文 (近世)	2.0
911.132	歌人伝・研究	1.5	920	中国文学	6.5
911.135	勅撰集. 八代集	9.0	920.8	中国文学 (叢書)	1.5
911.138	家集	4.0	921	中国文学 (詩歌)	20.0
911.14	中世: 鎌倉・室町時代	1.5	921.4	詩歌 (秦. 漢)	3.0
911.142	歌人伝・研究	2.0	921.5	詩歌 (五代. 宋. 元. 明)	2.0
911.147	私撰集: 小倉百人一首	1.5	923	中国文学 (小説. 物語)	14.5
911.148	家集: 山家集. 金槐集	1.5	924	中国文学 (評論)	1.5
911.16	和歌. 短歌 (近代)	5.0	928	中国文学 (作品集)	12.0
911.167	和歌. 短歌 (複数作家)	4.0	928.7	中国文学 (近代)	2.0
911.168	和歌. 短歌 (個人歌集)	12.0	929	その他の東洋文学	2.0
911.2	連歌	3.5	930.2	英米文学史	5.5
911.3	俳諧. 俳句	19.0	930.21	英米文学史 (日本)	2.5
911.32	松尾芭蕉	4.5	930.26	英米文学史 (18-19 世紀)	1.5
911.4	川柳. 狂句	3.0	930.28	作家の列伝	23.0
911.5	詩: 新体詩. 近代詩	2.5	930.29	アメリカ文学	3.0
911.56	詩: 個人詩集	7.0	930.4	英米文学 (論文集)	4.5
911.6	歌謡	3.5	931	英米文学 (詩)	2.5
912	戯曲	3.0	931.5	詩 (16-17 世紀)	1.5
912.3	謡曲	3.0	931.6	詩 (18-19 世紀)	2.5
912.4	浄瑠璃	6.0	931.7	詩 (20 世紀-)	1.5
912.5	歌舞伎	4.0	932	英米文学 (戯曲)	6.5
912.6	近代戯曲	2.5	932.5	戯曲 (16-17 世紀)	1.5
912.7	シナリオ. 放送ドラマ	2.0	933	英米文学 (小説. 物語)	2.5
913	小説. 物語	1.5	933.6	小説. 物語 (18-19 世紀)	5.5
913.2	古代前期	2.5	933.7	小説. 物語 (20 世紀-)	16.5
913.3	古代後期	3.0	934	英米文学 (評論)	2.5
913.32	伊勢物語	3.0	936	英米文学 (記録)	1.5
913.36	源氏物語	22.0	938	英米文学 (作品集)	11.5
913.37	説話物語	4.5	940.28	ドイツ文学 (作家研究)	2.0
913.41	中世: 住吉物語他	3.0	943	ドイツ文学 (小説. 物語)	3.5
913.434	平家物語	5.5	948	ドイツ文学 (作品集)	6.0
913.435	太平記	1.5	953	フランス文学 (小説)	5.0
913.47	説話物語: 古事談	2.5	958	フランス文学 (作品集)	6.0
913.5	小説 (近世)	12.5	988	ロシア文学 (作品集)	2.0

10 段を超える分類番号					
分類番号	主 題	書架の段数	分類番号	主 題	書架の段数
007.6	情報処理	36.0	388	伝説. 民話	10.5
081	叢書 (日本語)	40.0	417	確率論. 数理統計学	10.5
082	叢書 (中国語)	50.5	464	一般生化学	14.5
121	日本思想	24.0	491.3	生理学	10.0
134	ドイツ・オーストリア哲学	10.0	493	内科学	17.0
180	仏教	14.0	780	スポーツ. 体育	17.5
183	経典	20.0	835	英語 (文法)	11.0
188	各宗	14.0	908	文学 (叢書)	26.5
209	世界史・文化史	13.0	910.26	日本文学史 (近代)	22.0
210	日本史	51.0	910.268	日本文学 (作家研究)	45.5
210.1	通史	12.0	910.4	日本文学 (論文集)	18.0
210.3	古代	10.0	910.8	日本文学 (叢書)	18.5
210.4	中世	11.0	911.1	和歌. 短歌	11.0
210.5	近世	14.5	911.12	万葉集	18.0
222	中国	17.0	911.168	和歌. 短歌 (個人歌集)	12.0
289	個人伝記	20.0	911.3	俳諧. 俳句	19.0
290	地理. 地誌. 紀行	10.5	913.36	源氏物語	22.0

福永智子

291	地理（日本）	19.0	913.5	小説（近世）	12.5
311	政治学	10.0	913.6	小説（近代）	43.0
319	外交・国際問題	23.0	914.6	評論（近代）	21.5
323	憲法	10.5	918	作品集	63.0
331	経済学・経済思想	20.0	918.5	作品集（近世）	20.0
332	経済史・事情	13.5	918.6	作品集（近代）	30.0
333	経済政策・国際経済	12.5	918.68	個人全集	117.5
335	企業・経営	13.0	921	中国文学（詩歌）	20.0
336	経営管理	22.0	923	中国文学（小説、物語）	14.5
370.8	教育（叢書）	30.0	928	中国文学（作品集）	12.0
371	教育学・教育思想	10.0	930.28	作家の列伝	23.0
375	教育課程	12.5	933.7	小説、物語（20世紀-）	16.5
380	風俗習慣、民族学	12.0	938	英米文学（作品集）	11.5

注・参考文献

- 1) 全体としては書架分類を採用しながら、さらに知識の耐用年数が非常に短い主題領域においては、部分的に登録順配架の方法がとられることもある。不要となった資料を書架から除籍するといった作業を実施しやすいために、このような措置がとられている。
- 2) 志保田務，高鷲忠美『資料組織法』第4版，第一法規，2000. pp. 2-3.
- 3) もり・きよし原編，日本図書館協会分類委員会改訂『日本十進分類法』新訂9版，1995. pp. xxx-xxxiii.
- 4) 同上，p. xxxi.
- 5) 同上，pp. xxxi-xxxii.